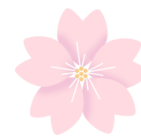


# 慈明院寺報 四月号

## 花までも心ありけり高野山



江戸時代の学僧・雲石堂寂本の詠んだ歌「花までも心ありけり高野山  
浮世の春を連れてぞ咲く」私が坊さんの修業時代を過ごした高野山には、桜が  
たくさん植えられていた。高野山の春は遅い。桜の開花は麓の九度山町よりも  
二十日ほど遅くなる。標高差八百メートルをゆつくりと桜前線が登ってくる。  
高野山・金剛峯寺前のしだれ桜と桜並木、伽藍の西行桜、清浄心院の傘桜  
など有名な銘木も多く、春は寺で飼っていた犬の散歩が楽しかった。

開創から千二百年を越える高野山。この歴史ある土地には竹が生えていない。  
明治時代のはじめまで、高野山には「山上禁忌」と呼ばれる厳格な規則が  
存在した。この掟の中に「禁植有利竹木」（利の有る竹木を植える事を禁ずる）  
という規則があった。これは果樹や漆など、加工しやすく人々の役に立つ竹木  
であっても、勝手に植えてはならないという森林政策の一種であった。

この規則の目的は「森厳護持」である。信仰の森の厳かさを保つ為の政策で  
あった。便利な役に立つ木ばかりを植えれば、そこは里山と呼ばれる低木林に  
なってしまう、聖地・高野山の信仰環境としてふさわしくない。高野山奥の院  
にそびえる樹齢三百年〜六百年の大杉林は、言葉では言い表せない厳かな  
雰囲気を感じている。まさに花も大杉も、人が心を注いで高野山という浄土を  
形成してきた。

「一年先を見る人は花を植える。十年先を見る人は木を植える。百年先を見  
る人は人を育てる。」と言われる。はるか昔、弘法大師が信仰の種を植えられた  
高野山は今年、弘法大師生誕・千二百五十年を記念して五月に法会が営まれる。  
誕生法会にはたくさんの人々が高野山に参拝するだろう。高野山の春を想い  
つつ、お釈迦様にお花を飾り花まつりの準備にかかる。 住職 合掌

## 春のお彼岸まいりについて

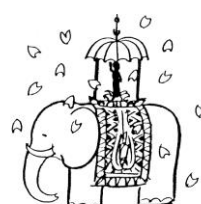
本年は三月十八日（土）より、春のお彼岸まいりをお勤めさせていただきます。  
各檀家様には、すでに「お彼岸まいり」のお知らせを送らせて頂いております。  
お忙しい時期とは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。  
随時、おまいりについてのお問い合わせ、変更など承ります。 住職 九拝

## 花まつり 自由参拝のご案内

令和五年 四月一日（土）〜 四月八日（土）

### 朝九時〜夕方五時位迄

花御堂に誕生仏（お釈迦様）を安置して、甘茶をそそいでご供養致します。  
甘茶、お楽しみ袋（お菓子詰め合わせ）をお接待致します。花御堂の  
お釈迦様は大師堂に安置しております。大師堂へお参り下さい。どうぞ  
お問い合わせの上、お参り下さいませ。（別紙参照）



## 住職の独り言

副業のごま豆腐製造・販売を一月末で廃業した。理由としては春四月から  
宗派の世話役をする事になり、ちよつと忙しくなりそうなので。この世話役  
亡くなった親父もやってたな・・・年齢を感じる今日この頃。（笑）

慈明院（〒八一一一三三三 福岡市早良区大字西二三四一―二〇）

TEL（〇九二）八〇四―四五七〇 FAX（〇九二）八〇四―四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇―（五二八一）―七四九四